



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—原油価格反発などを受け6週続伸—

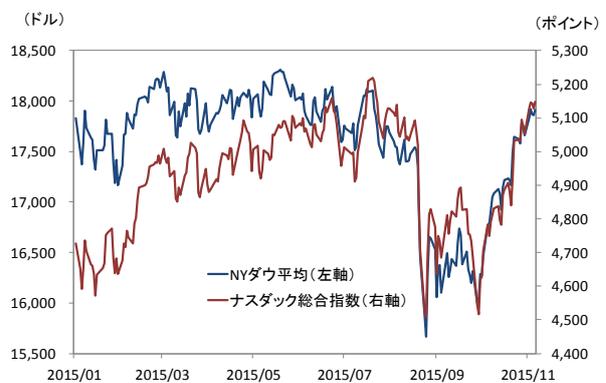
	前週終値	11月2日	11月3日	11月4日	11月5日	11月6日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	17,663.54	17,828.76	17,918.15	17,867.58	17,863.43	17,910.33	+246.79	+1.40%
騰落幅		+165.22	+89.39	-50.57	-4.15	+46.90		
S&P500	2,079.36	2,104.05	2,109.79	2,102.31	2,099.93	2,099.20	+19.84	+0.95%
騰落幅		+24.69	+5.74	-7.48	-2.38	-0.73		
ナスダック総合指数	5,053.75	5,127.15	5,145.13	5,142.48	5,127.74	5,147.12	+93.37	+1.85%
騰落幅		+73.40	+17.98	-2.65	-14.74	+19.38		

＜今週の概況＞

先週の米国株式市場はダウ平均が週間で250ドル近く上昇するなど、主要3指数が揃って上昇、6週続伸となりました。米国市場は原油価格の上昇を好感して週初から上昇して始まると、週半ばには利益確定売りに押されましたが、ダウ平均は週末に反発し、週間で1.4%の上昇となりました。

6日金曜日は雇用統計が市場予想を大きく上回る好内容だったことを受け、ダウ平均は上昇した一方、S&P500は小幅下落とまちまちでした。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



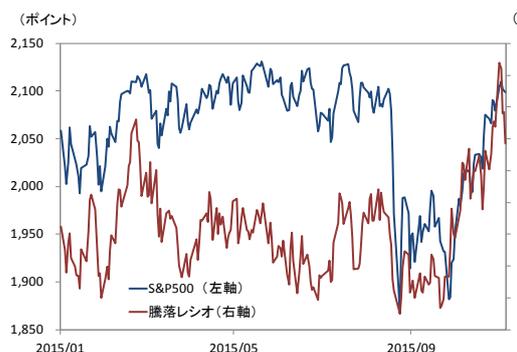
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	16.2	3.1	2.5%
S&P500	17.7	2.8	2.1%
ナスダック総合指数	23.1	3.9	1.2%

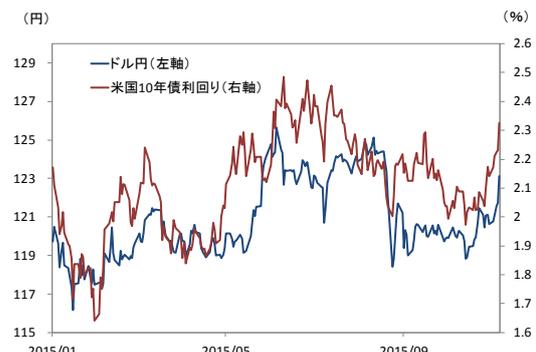
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年11月6日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

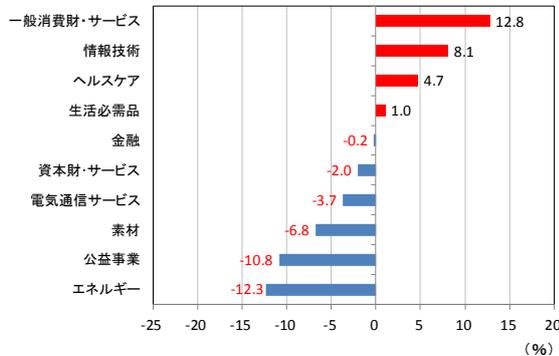
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

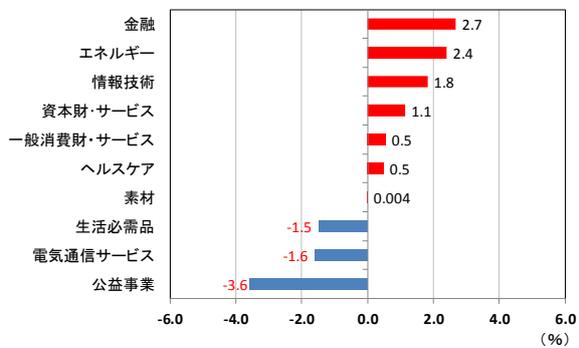
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(11/2-11/6)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
JPM	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	6.6
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	6.2
MSFT	マイクロソフト	4.3
DD	イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌムール	4.3
CVX	シェブロン	3.5
GE	ゼネラル・エレクトリック	3.5
WMT	ウォルマート・ストアーズ	2.7
UTX	ユナイテッド・テクノロジーズ	2.4
XOM	エクソンモービル	2.1
HD	ホーム・デポ	1.9

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング(11/2-11/6)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
UNH	ユナイテッドヘルス・グループ	-2.5
VZ	ベライゾン・コミュニケーションズ	-2.3
CSCO	シスコシステムズ	-1.4
IBM	IBM	-1.3
PG	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー	-1.1
KO	ザ コカ・コーラカンパニー	-0.9
MRK	メルク	-0.1
BA	ボーイング	-0.1
INTC	インテル	-0.1

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中21銘柄が上昇、9銘柄が下落しました。雇用統計が市場予想を上回る好内容で12月の利上げ開始期待が高まったことを受け、利ざやの拡大が期待されて金融株が買われました。JPモルガン(JPM)は週間で6.6%高、ゴールドマン・サックス(GS)は6.2%高とそれぞれ大きく買われました。原油価格の上昇を受け、シェブロン(CVX)やエクソン・モービル(XOM)も上昇しました。

先週発表された主な経済指標

非農業部門雇用者数（前月差） 10月 +27.1万人 市場予想 +18.5万人 前月 +13.7万人
 失業率 10月 5.0% 市場予想 5.0% 前月 5.1%

6日に発表された米国雇用統計は、特に注目度の高かった非農業部門雇用者数や平均時給が市場予想を大幅に上回る好内容でした。非農業部門雇用者数は27.1万人と市場予想の18.5万人を大きく上回り、今年に入ってから最高の記録をしました。

また、失業率は市場予想通り前月の5.1%から5.0%に低下し、2008年4月以来7年半振りの低水準となったほか、平均時給は前年比2.5%の高い伸びとなりました。12月の利上げ期待が高まる非常に強い雇用統計だったと言えます。



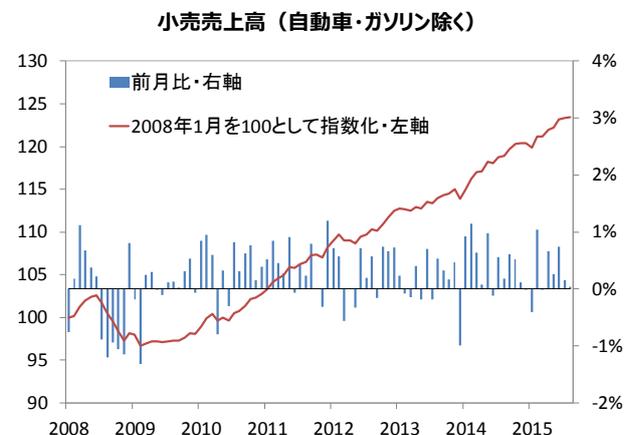
(出所)トムソン・ロイターデータよりマネックス証券作成

今後発表される主な経済指標

10月 小売売上高（除く自動車・ガソリン） 市場予想 +0.4% 前月 ±0%

13日に10月の小売売上高が発表されます。9月分は変動の大きい自動車とガソリンを除いた売上高が前月比横ばいとどまるなど、市場予想を下回る低調な結果となりました。

ただ、新車販売台数や消費者センチメントなどの経済指標は好調を保っていることから、個人消費は堅調に推移しているとみられます。市場予想では10月の小売売上高は前月比0.4%の上昇と堅調な数値になると見込まれています。



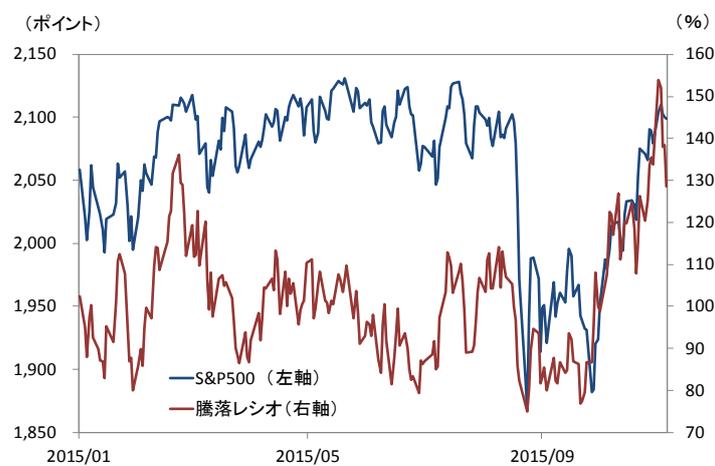
(出所)トムソン・ロイターデータよりマネックス証券作成

マーケットビューー引き続き短期的な調整に注意しておきたい局面ー

先週のマーケットビューーでは、筆者が集計している騰落レシオから見ると割高感があり、短期的な調整に注意と記しましたが、米国株は力強く続伸となりました。

引き続き騰落レシオはやや割高感があり、主要指数が6週連続上昇となっていることから短期的な調整に注意したい局面と考えています。

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会